

団体名	レッドイヤースライダーズ		
団体の所在地	神戸市須磨区	代表者名	三根 佳奈子

1. 事業名	奥須磨公園小松池における外来種ミシシippアカミガメの防除活動		
2. 実施期間	2013年4月～2014年3月		
3. 主な実施場所	神戸市須磨区 奥須磨公園内の池		
4. 活動形態	調査活動		
5. 活動内容・結果 (参加者、階層・人数等)	<p>神戸市須磨区の奥須磨公園にある小松池においてアカミガメ駆除を行った。調査には淡水カメ捕獲専用の網(通称:カメ網)を使用した。2013年4～11月にかけて小松池でアカミガメ駆除を行ったところ、計29個体のカメ類が捕獲された。その内訳は、アカミガメ11個体、クサガメ17個体、イシガメとクサガメの雑種1個体であった。小松池に生息するアカミガメのCPT(1網あたりのカメの数)の変動を調べたところ、駆除初年度の2011年8月にはCPTが最大1.6と高い値であったが、調査を行うごとにCPTは減少し、11月にはCPT0.2となった。その後2012年4月にはCPTは最大0.6に上昇した。その後調査を行うごとに、増減はあるもののCPTは減少し、12月にはCPT0となった。2013年には6月にCPT0.8と最も高い値となったが、前年度同様調査ごとにCPTは低下し、10月にはCPT0となった。以上のことからアカミガメは捕獲し続けられれば、CPTの増減を伴うものの、生息密度を低い値を保つことができ、駆除できるということが分かった。</p>		
6. 成果・反響・反省点等	<p>奥須磨公園には計6つのため池があり、それらは配管や水路でつながっている。本事業において小松池に近接複数の池調査を行ったところ、大池で捕獲されたクサガメが後に新池で捕獲され、カメ類が配管や水路を通じて池間を移動していることが明らかとなった。また、アカミガメの生息密度の変動を調べたところ、1年の期間で見ると、アカミガメは捕獲し続けられれば生息密度を低い値を保つことができ、駆除できるということが分かった。しかし一方で、3年間継続的に駆除し続けたものの、駆除翌年の4～6月にはアカミガメの生息密度は上昇することがわかった。アカミガメの生息密度を低いままに保ち、小松池を神戸市本来の生物が生息する環境にするためには、アカミガメ駆除を今後も継続的に行う必要があると考えられる。また、生態系は多様な生物相が相互に作用し形成されている。小松池においても同様で、小松池からアカミガメを取り除くことで、他の生物相に何らかの変化が起こると考えられる。今後はアカミガメ駆除を行うと同時に、それら生物相にも注目し、アカミガメ駆除の効果について検証していく必要がある。</p>		
7. 成果物	なし		
8. 活動写真・説明	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>アカミガメ駆除を行った小松池でカメ網を仕掛けている様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>カメ網で捕獲されたアカミガメ</p> </div> </div>		